



ハッピーベジタブル代表・野菜アーティスト

豊岡市 留田 幸大さん (32)

情報&個性を加えた「楽しい野菜」をつくる

緑豊かな豊岡市気比。ここに、定番のものから珍しい種類の野菜を栽培している畑がある。

「僕の畑は多品種を少量生産しています。手間はかかりますが、この方が畑に多様な野菜が生まれて病害虫に強い元気な野菜ができるんですよ」とは気比で野菜づくりをしている、ハッピーベジタブルの留田幸大さん。

留田さんはいくつか会社社勤めをした後、文字通り「地に足をつけた仕

事がしたいと農業を始め、今年で3年目となる。手順は幼い頃から畑を手伝っていたので、基本はほぼ分かっていたが、はじめは親戚の農家を手伝いながら1年の流れの勉強をした。

留田さんの栽培する野菜は、カラフルな彩りが特徴。普通ではあまり見ない品種の野菜を栽培している。

「普段野菜を食べない子が親の分までとって食べたといううれしい話も聞きます」と留田さん。「味もいろいろ見てもかわいから料理が楽しい」と京阪神からわざわざ購入してくれる人もいのだとか。だが、見た目に馴染みがないので、販売していても調理方法が分からず手にとってももらえないことが多いのが悩みだという。

また、ブログを使っての野菜の情報発信にも力を入れている。野菜の旬や成長過程、苦労話、動画を使ってのネットラジオを配信している。

「野菜がこんな風に成長するんだ、知らなかった」とコメントしてくれる方もいる。スーパーなどでは置いてあるのだが、情報を加えてあげると個性が出てくる。成長過程が分かると愛着がわくんですよ。食の安心安全が叫ばれる中、情報発信も野菜と同じ

とめだ・ゆきひろさん
豊岡市出身。情報発信をしながら野菜を栽培している。とよおか産直まごころ市場(豊岡市下陰129)やインターネットなどで野菜を販売中。神鍋高原のブルーリッジホテルなどにも野菜を卸している。詳しくはお問い合わせ。
TEL.090-3969-6940

野菜ブログ発信中...<http://tano41.com/yasai/>

くらい大事と思っています」
野菜+ストーリー。これがあつてこそハッピーベジタブルの野菜なんだそうだ。「今は僕も成長途中なので、成長させてくれる客の輪を広げていきたい。レストランやパティシエ、意外な業種とのコラボ企画、あと講演もしてみたいですね」と留田さん。今後は珍しい野菜のレシピ、成長状況がわかるメルマガや会報などの会員組織をつくっていきたいそうさだ。

個性と情報を加えた彩り豊かな留田さんの野菜。ただ食べるだけの野菜から、楽しんで食べてもらえる「ハッピー」な野菜へ。今も留田さんの挑戦は続いている。



留田さんの野菜は赤や黄、オレンジ色の人参や白いピーマン、黄色と紫色のインゲンや、黄色と黒色のトマトなど色とりどり。

折込(但馬~福知山)+店置き

生活充実フリーペーパー
まちのアレコレRecommend [レコ]

Reco.

●クーポン券付、お楽しみプレゼント企画で誘客効果
●Reco.WEB展開中! <http://www.refree.com>

飛んでいきます!

掲載店 募集中

●お問い合わせは
岩見印刷株式会社
〒669-5321 兵庫県豊岡市日高町土庫67-1
0796-42-1200
info@refree.com

晴耕雨読

ドラマ『龍馬伝』の熱き息吹を感じる旅へ

のんびり、じっくり 悠々と楽しむ旅の提案

06 幕末・桂小五郎ゆかりの地めぐり



山陰から京へと続く京街道沿いにある豊岡市但東町久畑は、宿場町として栄え、関所や参勤交代の宿陣が設けられていた。桂小五郎の危難を伝える石碑や、石畳の街道跡が残っている。

大河ドラマ『龍馬伝』の人気により、今、ブームを呼んでいる幕末。但馬は幕末維新の舞台となった京都に近いこともあり、尊皇派志士たちゆかりの地がたくさん残っている。

特に維新三傑の一人に数えられる木戸孝允が、一時、但馬に身を隠していたことは有名だ。坂本龍馬の尽力により成し遂げた薩長同盟は、倒幕運動の転換点となった出来事。木戸は長州藩の代表として、当時犬猿の

仲であつた薩摩藩との同盟に大きく貢献した。時代劇ファンなら、桂小五郎と呼んだ方がなじみが深いだろう。

元治元年（1864）、禁門の変で敗れた長州。小五郎はやつこのことで戦いを切り抜け、焼け野原となった都で潜伏生活を余儀なくさせられる。

しかし、新撰組を始めとする幕府方による残党狩りが激しさを増し、このままでは捕縛されるのも時間の問題だった。このまま、京にとどまるのは難しいと考えた小五郎は、顔見知りの商人・戸広甚助に助けを求める。

この甚助こそ、小五郎と但馬の接点をもたらしした人物。出石藩出身の甚助は故郷でかくまうことを決意し、一路、京街道を西へとひた走つた。各関所を突破し、いよいよ但馬への玄関口である「久畑の関所（豊岡市但東町）」を抜けようとした瞬間、道中で最大の危機がふりかかる。

但馬の住人として偽名を使用していた小五郎に、但馬訛りがないことを怪しまれたのだ。都からの脱出者を



警戒していた関所の役人に、長州の残党ではないかと問いつめられた間一髪のところで、遅れていた甚助が歩み寄り、ちょうど知り合いの役人がおり、「自分が雇っている船頭だ」と必死に弁明し、窮地を脱したのであった。

無事に出石の城下町にたどり着いた小五郎は、甚助の旦那寺である昌念寺や、広江孝助と名乗って荒物屋を営みながら身を潜めることとなる。

また、幕府の追っ手が迫ると、城崎温泉の「つたや旅館」や、養父市養父市場の西念寺に寺男として身を隠して、探索の手から逃れたという。小五郎ゆかりの地には石碑などが佇み、往時の様子を偲ぶことができ。その場所ならではのエピソードも残っているので、この秋は幕末の旅へと出かけてみてはどうだろう。



出石城跡



城下町・出石に住む桂小五郎潜居跡の石碑。ここで雑貨屋を営み、追っ手から身を隠した。



潜居先となった城崎温泉の「つたや旅館（当時松本屋）」前の碑文。『龍馬が行く』の作者・司馬遼太郎も執筆の際に、当旅館に宿泊した。

KIMONO SALON KEITANI
since 1992

きものサロン けいたにに
〒668-0084 兵庫県豊岡市福田1887-1
フリーダイヤル **0120-529-008**
kimonosalon-keitani@live.jp

購入特典 <一式または振袖 or 帯>
無料着付フルサポート
◎前撮り ◎成人式
ヘアメイク・装飾り付き
フリーショット 撮影付き

振袖は一生の思い出に残る衣装です
お嬢様に一番似合う振袖にきっと出会えます

着用後のケアも安心
after cleaning
お手入
クリーニング
汚れ落とし無料
※パール・ストーン加工済に限り

コラボでキレイに
BLOW HAIR